



岡本 昌也



森永亜紀子



植山 真考



ふるさとへ

30

野村 正代さん
(東京都大和市在住)



ふるさと

「もしもし、野村さんですか
いね。わたしやあ日置町役場
の……。」

ええ、ええ、すぐ、日置の
人からつてわかりました。な
つかしいニュアンス、イント
ネーション。ところで何の御
用でしょう。

私の小学校時代の思い出は
海とくっついていきます。

今は護岸工事ですっかり様
子が変わってしまった赤石の
下で、春先の「あさつべ採り」。
夏は、伝馬船に見守られなが
ら波止場間を泳ぐ遠泳で、完
泳できた満足感。そして、お
まつりの夜広場で観た映画や
演劇も潮の香と共になつかし
く思い出されます。

中学生になると、神田小の
者は、汽車通学になります。
列車がトンネルに入るとどん

なに暑くても窓を閉めないとい
えり首が黒くザラザラとして
しまう蒸気機関車での毎日。

しかし、何にもましていい
のは、言葉です。神奈川県での
生活は、もう黄波戸でのそれ
以上に永いのに、それでも、
「お国はどちらですか。」

とよく言われます。言葉その
ものよりも語尾の違いからで
しょうか。音便がよく使われ
るので言い方が柔らかくなり
ます。例えば、「よく」↓「よ
う」、「しないといけない」↓
「せんといけんよ」等です。

私はこのいたわりと優しさの
こもった言い方が大好きです。
また、帰ってきた時には、
近所の人たちから、

「よう帰っちゃったね」
「元気かね。今何しちよって。」
と声をかけられると、「帰っ

日置俳壇

〈兼題 中元〉

中元の小さな添え書ほ、笑
まし 塩瀬 米江
中元を交はして無事のよす
がしす 古谷 桃月
中元のとどけば幼の走り
ひとり居の友へ無沙汰の御中元
御中元感謝を込めた筆の跡 松岡ヨシ子
中元も年の流行あるらしく 柚花 岩門
盆札を済ませ安堵の湯にひた 富田佳津美
あちこちの子孫が元気で盆 池永 君江
見舞 高尾 凡果

〈雑詠〉

すこやかに白寿迎えて墓洗
う 古谷 桃月
病院で待つことに馴れ秋来
たる 木村 一路
老ぬれば黙しがちなり秋の暮
町大暑日がな畑を掘り起す 秋枝タキ子
微笑みて何の夢かな孫昼寝 柚花 岩門
存問の今朝の秋めく一語かな 塩瀬 米江
福寿苑屋上高く望の月 河内みさほ
天の川眠り深深過疎部落 池永 君江
見舞 高尾 凡果

筆者紹介

昭和22年生まれ。黄波戸出
身。旧姓福永。広島大学卒業
後、昭和44年に福山市で教職
に就かれ、昭和47年から、横
浜市立小学校に転任されご活
躍中。

家族は、夫、娘二人の四人
暮らし。

ふるさとへ登場者募集中!

役場企画情報係へご連絡
下さい。